

中国の雑技



中国の雑技

北京 外文出版社

中国の雑技

1974年 初版発行

定価 800 円

出版者 外文出版社
(北京阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店
(北京 P.O. Box 399)

取扱店 東方書店(東京) 亜東書店(東京)
中国書店(福岡) 内山書店(東京)
(株)満江紅(東京) 朋友書店(京都)
中華書店(東京)

編号: (日) 8050-1415

85-J-121P

09300

ま え が き

中国の雑技は、はやくも西漢(紀元前206～紀元24年)の時代から、わが国で広くおこなわれ、すでに2000余年の長い歴史をもっている。

雑技は、生活の実践のなかで、練られ、創造されたものであって、濃厚な生活のいぶきがみなぎっている。たとえば、多くの種目につかう道具——碗、盆、皿、かめ、いす、さすまた、さお、はしごなどは、いずれも勤労人民の日常生活のなかでよくみかけるものである。演技者たちは、これらの道具をたくみに駆使し、優美で複雑な雑技の動作を通じて、中国人民の知恵を反映し、勤勉で勇敢な、楽観でねばり強い民族の性格を反映している。

中国の雑技には、種目がたくさんあるが、「頂」(さかだち)と「翻」(とんぼがえり)をその特長とする。演技者は、積みかさねた椅子やゆれうごくはしごなどの道具の上でと

んぼをきったり、さかだちをしたりして、いろいろな芸を演じ、巧みで、的確なその動作は、広はんな観衆からひじょうによろこばれている。

しかし、解放前には、雑技も、ほかの民族的芸術とおなじく、歴代の反動的支配階級に圧迫され、さげすまれてきた。解放後、とりわけプロレタリア文化大革命いらい、中国共産党と毛主席は、この民族的芸術に大きな関心をよせ、これを重視した。以前、「旅芸人」「大道芸人」とよばれて、芸をうり、物乞いをして生計をたてていた雑技の演技者たちが、今では、みな国家の主人公となり、生活は保障され、その政治的地位にも思想面にも大きな変化が生じた。

近年、雑技にたずさわっている人びとは、つねに工場、農村、部隊に深くはいり、労働するかたわら、労働者、農民、兵士のために演技をひろうして、芸術が政治と生産に奉仕し、労働者・農民・兵士に奉仕する方針を貫徹している。同時にまた、「百花咲きそろわせ、ふるきをおして新しきを出す」、「昔のものを今に役立て、外国のものを中国に役立てる」という毛主席の文学・芸術の方針にみちび

かれて、真剣にふるい雑技の改革にとりくんでいる。かれらは、ふるい雑技のなかの、恐怖感を与えるものや俗っぽいものをすてさり、伝統的なだしもののすぐれた部分をうけつぎ、発揚している。さらに、伝統的な基礎のうえになって、多くの新しいものをも創造している。音楽の伴奏、照明の効果、服装の設計、演技の表現力などの面で、めざましい発展がみられる。新人の養成の面でもかなりの成果をあげている。

20余年らい、多くの雑技団は、たびたび外国を訪問・公演し、中国人民と世界各国人民との友宜と文化交流を増進するうえで一定の役割を果たした。雑技の演技者たちは、この昔からの、中国の民族的芸術を外国の友人に紹介して、友人たちから非常によろこばれ、称賛されている。同時に、演技者たちも、また世界各国の雑技芸術のなかから、多くの貴い経験をまなびとり、自己の演技をいっそうゆたかなものになっている。





しし
獅子舞い









椅子の上のさかだち









